

辰野 便り フクジュソウとオオイヌノフグリの花

2013. 2. 3

節分の日、農道脇の雑木林の一隅に、一際鮮やかに咲くフクジュソウの花を見かけました。近くに人家も無いこんな林の中に、何故一輪のフクジュソウが咲いているのかと思いつつも、“こんな処に春が来ている”と嬉しくなりました。私がしゃがんで写真を撮っていたら、通りがかりの車が止まり窓から年配のおじさんが顔を出し「何かいますか」と尋ねました。「こんな処にフクジュソウが咲いているんです」と答えると、車から降りてきて「こういうところに咲いているっていいですね」と言いながら、しばらく一緒にフクジュソウの花を見ました。



オオイヌノフグリの花が咲いたとHPで紹介したら、早速女性の方から電話が掛かってきました。“私はオオイヌノフグリなんて呼ぶのは嫌いです。あんな可愛い花に何故あんな名前を付けたのでしょうか、私は早春の『青い瞳』と呼んでいます”と言う主旨でした。私もかねてから‘似つかわしくない名’だと思っていたので賛同し、金子みすゞさんの詩の話をしました。

人の知っている草の名は／わたしはちっとも知らないの／人の知らない草の名を／
わたしはいくつも知っているの／それはわたしがつけたのよ／好きな草には好きな
名を／人の知っている草の名も／どうせだれかがつけたのよ
心なごむ昼下がりの楽しい会話でした。



(加納 巖)